

裾野麗峰山の会報告書

文・写真・後藤

山行番 NO. 1607 (富士宮あさぎり山の会・裾野麗峰山の会＝合同交流山行)
日時 2014.09.05 (金)～08 (月)
山域 北アルプス・劔岳 (2999m) 北方稜線
参加者 あさぎり山の会＝S藤 (64)、K林 (49)、M上恵 (52)、M井 (65)、
M上賀 (60)、S木 (61)
麗峰山の会＝G藤 (67)、T葉 (40) 以上＝全8名

第1日目

9月5日 (金) 雨のち晴

タイム 下土狩発4:00－あさぎり道の駅5:00－甲府南IC－中央道－信濃大町－
扇沢8:04－トロリーバス始発8:15－室堂発10:15－劔沢テント場着
13:19 (テント泊)

標高差 上り 雷鳥沢約2280m～別山乗越約2750m＝約470m

下り 室堂約2430m～雷鳥沢約2280m＝150m

別山乗越約2750m～劔沢テント場約2550m＝約200m

まだ暗い「あさぎり道の駅」裏手で「あさぎり山の会」6名と合流し、車二台で扇沢に向かう。途中、諏訪湖SAは晴れていたが、次第に雨となる。扇沢から一番のトロリーバスに乗る。室堂に着くと大雨。昨日はS藤と入念に天気予想をし、今日は「雨のち曇り」と想定したが、完全に外れた。

久しぶりの本格的幕営山行で荷物は重い。私は19Kgだが、若いT葉は23Kgだった。雷鳥坂を喘ぎ上る。8名パーティー中、女性が4名。この、あさぎりの女性は元気イッパイ。

早い時間に劔沢テント場着。今日は金曜日でテントは少なかった。少し小降りになり、テントを素早く張ろうと思ったら、また降って来た。

幕営後、T葉が約70m下の劔沢小屋までビアを買いに行ってくれた。ロング缶が800円。私は3本購入。兎に角、テントに入り濡れた衣服を交換。あさぎりの大型テントで交流会と思ったが、モーレツな雨で出られない。仕方がないので、T葉と二人で入山祝いの乾杯。つまみは、ニンニクステーキを焼いた。

恐ろしい位のモーレツな暴風雨。バケツをひっくり返した、とはこの事だろう。既に購入から十数年の我がテントは浸水が夥しく、マットの下に水が溜まっていた。浸水はするが排水しないので、止む無くナイフでテント底を切って排水した。それでも4～50分後に劔岳が見える程、晴れたのには驚いた。

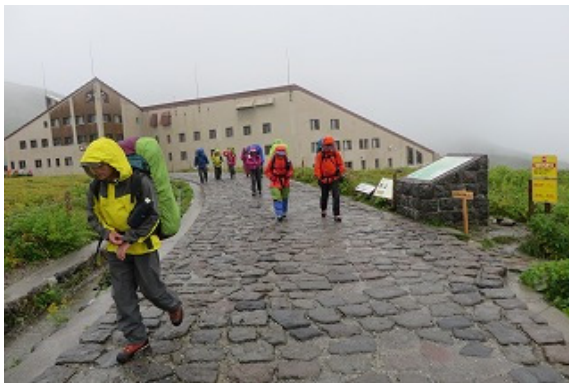
あさぎりの今回初下ろしの新品ジャンボテントに移り、交流会と夕食。まずは今日の健闘を祝しビアで乾杯。私が上げた日本酒もアツという間に終わった。我々の夕食は、ニンニクステーキ。1枚200gあるので分割し、あさぎり全員に上げた。その代り、あさぎりの野菜入りラーメンを頂いた。なかなか美味しかった。外は、いつしか月が出て明日の天気を期待させた。



黒四ダム



立山ソバ



室堂



剣沢テント場



あさぎりテント

第2日目

9月6日(土) 晴・酷暑

タイム 起床4:00-出発6:24-剣沢-真砂沢ロッジ8:07-二股吊り橋9:41-仙人峠11:52(5名は仙人池ヒュッテ往復)-池の平小屋12:46(小屋泊)

標高差 上り 二股約1600m~仙人峠約2150m=約550m
下り 剣沢テント場約2550m~二股約1600m=約950m
仙人峠約2150m~池の平小屋約2050m=約100m

天気は良かった。今日は池の平小屋泊だから、不要なものは置いて行く。テント場から剣沢小屋前を通過し剣沢を下る。ただ、T葉はトイレで少し出遅れた。夏の剣沢を下るのは初めて。何回か来ているが、全てスキーだった。案外と花が残っていて楽しんだ。

途中から雪渓に降りる。私とK林(T葉も)はアイゼンを履いた。私は右膝がイマイチだったから大事を取った。しばらく下ったら、今度は左ふくらはぎが「ビリッ」とした。軽い肉離れのような感じだった。7月13日、御坂黒岳で右膝が痛み、それをかばっていた結果らしい。ビリビリ、痛かったが我慢して下る。

長次郎雪渓出合は懐かしかった。ここは、2003年に長次郎雪渓から剣岳に上り滑った記録がある。いわゆる「点の記」と同じルートだ。あれは現在でもサイコーの登山だったと自負している。

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/page076.html

懐かしい真砂沢ロッジ着。5月はこのロッジは完全に雪の下だ。M上賀が、管理人のS氏を表敬訪問。数年前、この付近で転倒骨折し、ヘリで救助された時、世話になったという。その時、お礼に「ミカン」を送ったそうだが、「俺なら酒だな」とか、しばし贈り物を何にするかで盛り上がった。

管理人からこの下の雪渓のクレバスが悪いので、対岸に渡り巻き道に行くように指示される。何でも過去事故が二件あったそうだ。来てみたら確かに大きなクレバスで非常に危険な感じだった。CLのS藤が「ザイルを使ってクレバスを下ろう」と提案するが、ちょっと危険な判断と感じ、結局対岸の巻き道に向かった。

巻き道は、毎年使っているような道で、よく踏まれていた。ただ、この頃からモーレツに暑くなり閉口。再び剣沢に降り、丸太橋を渡り左岸に戻る。ここから二股まで剣沢の河原歩きは、暑さ・ゴロタ石・筋肉痛で最悪だった。

二股には立派な鉄橋が架かっていた。道はここから仙人峠まで約550mの上り。標高が低く南面なので強烈に暑い。この時期、暑かったり寒かったりで衣服の選定が難しい。私の下は純毛のニッカー、上はカッターシャツで参った。しかも、ふくらはぎが痛く、左足を引きずりながらの急登。思わず泣きが入った。

途中、三の窓雪渓・三の窓・北方稜線が素晴らしかった。特に三の窓雪渓はクレバスがなく、綺麗な雪面が三の窓まで続いていた。ここは、2002年にN岡と1



朝の剣岳



剣沢



真砂沢ヒュッテ



二股



三の窓雪渓と
三の窓



日で三の窓と池の平山に上り滑った。両方で標高差約2000mの上り下りだが、今やろうと思っても出来ないだろう。

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/page087.html

M井にトップを譲り、後ろをブラブラ上る。ところがS藤も調子が出ず、本人曰く「熱中症みたい」という。それでも、私は何とか仙人峠着。先行の6名中、5名は時間があったので、仙人池ヒュッテに遊びに行っていた。残っていたのはT葉1名で、彼にS藤のサポートをお願いした。彼は嫌な顔一つせず踵を返した。

私は喉がカラカラで水分が欲しかった。T葉にポカリを譲って貰い大休憩。「死にそうだ・・・」とはこの事だろう。足の不調とモーレツな暑さが原因だった。S藤とT葉は15分過ぎに上って来た。無事でよかった。

合流後、5名はまだ戻っていなかったが、先に池の平小屋に向かう。少し上り30分の下りで小屋に着いた。無雪期は15年振りだった。春は剣一周時、2004.05に訪れていた。

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/page108.html

小屋前で管理人かと思った手伝いの方が手を振っていた。やがて全員が集結。天気は良く気持ち良い。眼前には八ッ峰・北方稜線・チンネ岩峰群の雄大な景色が広がっていた。八ッ峰は2002年、チンネは、40年前に上っている。

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/page020.html

ともかくビアで乾杯。ここはロング缶750mlで剣沢より安かった。こちらの方が高くてもイイ気がした。S藤が飲みながら盛んにぼやく。「他会（T葉）の人にサポートを受けて有難かった。あさぎりの連中は、パーティー（俺）の事を考えず、先行し全く冷たい連中だ」と、その後も何回も何回もぼやいた？（笑い）

手伝いの方が「風呂」に入れるという。ここは「風呂」が売りだった。こんな超山奥で「風呂に入れる」は奇跡だ。何故かといえば、元々この小屋が「鉾山で働く方の仕事小屋」だったことに起因する。鉾山の重労働で風呂が必要だったので。その文化が現在に受け継がれている。燃料は、灯油と薪。

風呂は露天の五右衛門風呂と屋根付きの風呂。15年前は一つだった。さっそく屋根付きに入る。サイコーの気分だった。ビアのほろ酔いと温かいお湯。これで今日の疲れが取れれば有難い。感謝・多謝・深謝。その後、皆も五右衛門風呂に入ったり楽しんだ。

小屋は場所が場所だけに、それ程混んではいなかった。テン泊の66歳の方がいた。何日かこの辺りで遊ぶそう。他、何十年前前、ここの管理人を務めた方もいた。ボランティアでハシゴ谷から20Kg荷揚げの人もいた。美味しいものを揚げるようだが、お客用でなく関係者でいただくようだ。

午後の陽光を浴び、記念写真を撮り、ダベツたり、飲んだり、平の池に遊びに行ったり、至福な時間が流れた。夕食は「とろろご飯」だった。 （敬称略）



手伝いのオジサン



くつろぐ



平の池 (T葉撮影)



五右衛門風呂



記念写真



三の窓と
チンネ岩峰群



池の平小屋テラス



池の平小屋の夕食